図書案内　2017年　12月号

担当　2-1H　櫻田　　2-5H　横道

雪の降る季節に
コタツのなかで
読みたい本特集

……想像してみましょう。外は雪。あなたはコタツの中にいて、その上にはみかん。昼寝を終えたあなたの頭はすっきり冴え渡っています。さぁ、読書がしたくなってきたでしょう？　今回は、今の季節にぴったりな本を紹介します。図書館にて貸出しています。

マッチ売りの少女／人魚姫　アンデルセン傑作集

アンデルセン／著

大晦日の夜、雪の中に少女がひとりマッチを売り歩いていた。あまりの寒さに少女は暖をとろうと火をともすと、目の前には不思議な光景が浮かび上がり……。誰もが知るアンデルセンの物語集です。今年の冬はアンデルセンの色あせない傑作と過ごしてはいかがでしょうか。

女の子が、どんなに美しいものを見て、どんなに輝きながら、なつかしいおばあちゃんといっしょに、新しい年のよろこびのなかへと昇っていったということは誰も知らなかったのだ。

マッチ売りの少女はマッチの灯に照らされて多くの幻覚を見ます。いわゆる走馬灯、臨死体験という現象ですね。実際にこのようなことが起こるのかは断定できませんが、米・ミシガン大学の研究で、人間の死後 30 秒以内に短時間の脳活動が確認されました。また、ラットを使った実験の際も心停止後 30 秒間脳波が確認されました。つまり、完全に死ぬ直前に、短い間ながら意識と記憶の高まりが起きている可能性があるのです。これらを踏まえると走馬灯ということも現実味を帯びてきますね。あなたは最期になにを見るのでしょうか……。

【参考】https://forbesjapan.com/articles/detail/16852

クリスマス・キャロル

ディケンズ／著

ケチで冷酷で人間嫌いのがりがり爺・スクルージ。クリスマス・イブの夜、仕事仲間のマーレイの亡霊と対面し、彼の予言通り第一・第二・第三の幽霊に伴われ時間や場所を超えたところへ訪問すると……。クスリマスの華やかさが人間の影の部分に光を与える、涙とほほえみの物語。

何がクリスマスおめでとうだ！　何の権利があってお前がめでたがるのかってことよ。貧乏人のくせに

12 月 25 日の怪物　謎に満ちた「ｻﾝﾀｸﾛｰｽ」の実像を追いかけて

髙橋　大輔／著

この本は、冒険家の髙橋大輔さんがサンタクロースの謎を追ったノンフィクションです。髙橋さんは今まで「物語を旅する」というテーマで『浦島太郎』などの背景を世界各地に訪ねてきました。世の中に伝説がある限り、冒険は無くならない―。この作品では、いつの間にか日本に定着した聖夜の人物に挑みます。行き先は、まずはトルコから！

日本人にとってサンタクロースはナマハゲと同じ小正月の来訪神だったのだ。

サンタクロースの赤い衣装を考え出し有名にしたのは、1931 年、アメリカのコカ･コーラ社が冬のキャンペーン広告のキャラクターとして、サンタクロースを起用したことから、サンタクロースの名前が急に世界中に知られるようになりました。子どもたちのために、たくさんのおもちゃをかかえた、やさしそうなサンタクロース。白いふさふさしたひげをはやし、太った体形というアイデアは、アメリカの風刺漫画家トマス･ナストによって生み出されました。それまでの絵本や絵画の中に、サンタクロースは青い服を着たり、さまざまな色の衣装を着ていたそうです。今とはずいぶんイメージが違いますね。

【出典】http://www.pauline.or.jp/chripedia/mame_SantaClaus.php

おやつ　パン　イベント菓子も

ホットケーキミックスなら簡単！

“ホットケーキミックス”と本のタイトルにありますが、食事パンやイベントで出せるようなケーキの作り方も書いてある本です。もちろんクリスマスに友達と作るようなお菓子も掲載されています。全ページがカラー印刷されているのでとても見やすく、おいしそうな料理ばかりなので是非作ってみてください。